

世界の異常天候とその影響評価 (32)

(Climate Impact Assessment, October ~November 1986, NOAA/NESDIS)

〔10月〕

1. 合衆国・中西部一大雨・洪水

10月初期までの集中豪雨の継続（前月報参照）と月末の豪雨により、ミズリー、アーカンサス、オクラホマ、テキサス、アイオワ、ルイジアナ及びイリノイ各州の河川の氾濫は継続したままである。イリノイ、ミズリー及びオクラホマ各州の多くの河川では、洪水時の最高水位は従来の記録に迫るか、あるいは記録を更新した。

2. アフリカ南部一大雨

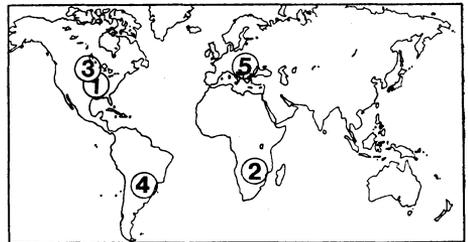
アフリカ南部の広範囲にわたる異常豪雨は、水の供給を増進し、先まき穀物に好影響をもたらした。タンザニア、ザンビア、ジンバブエ、ボツワナ、南アフリカ及びマダガスカル各国での10月の総降水量は平年の200~500%であった。全体的にみて影響は好ましいものであったが、雨期の早い開始がバッタの大発生を増進した可能性もある。

(気候変動対策室 重原好次)

〔11月〕

3. 合衆国・北中部一低温

11月7日~9日に合衆国北部平原地域を激しい冬の嵐が襲い、強風、低温、降雪（64 cm に達した）をもたらした。ノースダコタ州及びモンタナ・ミネソタ・サウスダコタ各州の一部を襲ったこの荒天のため8名が死亡した。この荒天の後に吹き過ぎた北風・西風により、10・11日に合衆国北中部の各州で記録的な寒さとなり、モンタナ州のビューートでは -35°C を記録し



たと報告されている。北極気団が東へ移動し大西洋岸に達した13・14日には、数10地点において低温の記録が更新された。

4. ブラジル・ウルグアイ一大雨

11月後半の大雨により広範囲で洪水が発生した。ブラジル南部のリオグランデドスル州の西部で特に雨が多く、400 mm 以上に達した。一方、同州の他の地域とウルグアイの降水量は200~300 mm であった。報告はないが、作物の被害、道路の冠水、公共サービスの障害等が発生したらしい。

5. ヨーロッパ東部一乾燥

ルーマニア、ハンガリー、ユーゴスラビアの各国では、干ばつと低温により冬作物の発芽が阻害され、秋作物の苗立ちが遅れている。各国の過去3カ月間の総降水量は平年の50%以下であった。

注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。

(気候変動対策室 中川慎治)